

令和6年度とくしま流域水懇談会 開催結果

- 【東部圏域】日時：令和7年2月12日（水）
午前10時30分～11時30分
場所：徳島県庁11階 1105会議室
- 【南部圏域】日時：令和7年2月13日（木）
午後2時～3時15分
場所：南部総合県民局阿南庁舎
本館2階 中会議室
- 【西部圏域】日時：令和7年2月12日（水）
午後3時～4時10分
場所：西部総合県民局三好庁舎
新館3階 31会議室

【概要】

令和6年度とくしま流域水懇談会では、とくしま流域水管理行動計画について、今年度までに策定した計画の取組状況や新たに策定した計画（二級河川勝浦川、二級河川母川）について会員に報告し、意見を伺うとともに、今後も本計画を推進していくことを確認した。

【意見要旨】

■東部圏域

- ・行動計画は継続することが大切で、母体となる会があれば続いていく。そういう母体となるボランティアの会をつくるよう県が働きかけてはどうか。母体がなく、自治会や自主防災会などが主体となっている場所は続かない。
- ・九州では「河川協力団体連絡協議会」があり、「河川協力団体」の事務局として各団体の困りごとなどを連絡協議会に連絡し、各協力団体にフィードバックしている。同様に事務局のようなものがあれば、地域住民への周知などもより良い形になるのではないか。
- ・除草活動の参加者が減っている中で、県の広報などで協力してくれる人への呼びかけをお願いしたい。
- ・環境学習の参加者が、次年度自主的に清掃活動に参加してくれた事例があった。環境学習など水教育を通じ、川について関心を持ってもらうことは重要。
- ・清掃活動だけではなく、楽しい場も一緒につくると人が集まる。九州の筑後川で活動している「Good News」は、毎月河川清掃を実施しており、カヌー体験や地元のコffeeショップとのコラボ、大道芸人を呼ぶなど、河川清掃にプラスアルファのイベントを実施し、毎月100人以上参加者が来ている。河川清掃以外に楽しい、おいしいといった付加価値があれば、参加者は増える。
- ・（入会している）団体主催でチャリティーイベントをしていたが、一晩中、人が動くため、音がうるさいと苦情が出て、実施しなくなった。イベントではカヌー体験や焼き芋などを実施し、多いときは500人以上の方が参加してくれた。現在も地域の人のみで実施しているが、地域住民も減少し、継続が難しいところ。
- ・徳島県内の青年会議所は20歳から40歳までの年齢層で7団体ある。若手の活用については、青年会議所へ相談いただくのも1つの手法かと思う。
- ・河道内の樹木伐採について、一部河道内樹木は水害防備林として植栽されている箇所もあるため、配慮いただきたい。

■南部圏域

- ・那賀川の支川で堆砂がどんどん進んでいる。流水箇所が狭まっており、樹木伐採などを実施しても意味がないのではないか。どうして土砂が流れるのか、根本を解決する方法を考え、対策を速やかに実施すべき。
- ・山で皆伐が進んでおり、土砂が支川に流れている。川の中だけでなく、山林の土砂対策など、早急に流域全体で取り組むべきと危惧している。長年の対策不足が目に見えて現れてきていると感じる。
- ・イベントの実施事例として、林業関連のイベントを実施し、年齢層問わず参加頂いている。山を歩いたり山で遊んでもらったり、現場にあるものを使い、子供達の考えで自由に作業してもらったり、取組を進めている。
- ・時間がかかっても若い世代への水教育は大切。
- ・那賀川の源流を知るなど、上流、中流、下流の3つのカテゴリで、現地を視察する研修会の開催を検討いただきたい。

■西部圏域

- ・吉野川では、川に入ってはいけないという教育をしているため、そこを見直さなければ、川への関心は深まらない。
- ・除草活動について、目的や役割などが周知されないまま、実施している箇所がある。実際に作業している人に目的などが伝わっていないのはもったいない。
- ・河内谷川の「水辺空間のにぎわい創出」について、以前からしているイベントであるが、計画実施に際し、新たな取組がない。イベントの中で地元中学校の吹奏楽部が演奏しているが、例えばその子供達向けに川の話ができないか。次の世代のリーダーを育てていかなければいけない中で、親子で参加できる草刈りを含めた楽しい思い出となるようなイベントなどをできないか検討頂きたい。
- ・香川県で活動している「子どもたちにライフジャケットを！」という団体は、各小学校にライフジャケットを人数分置くべきというメッセージの発信や普及活動を実施している。活動を実施している方を招き、「川は危なくない、ライフジャケット着たら大丈夫」と認知してもらうことが大切なのではないか。
- ・「川は危ない」ではなく、「なぜ危ないか」や「危険ではない」方法を伝えていかなければいけない。
- ・仮に河内谷川で実施しているイベントが無くなったとしても、川で遊ぶなど費用がかからないイベントをつくるのもいいのでは。
- ・水の循環について、子供達への教育が必要。水は循環しており、森林を大切にしなければ、水が枯渇してしまうなど、水の繋がりについて今の子供達は知らない。